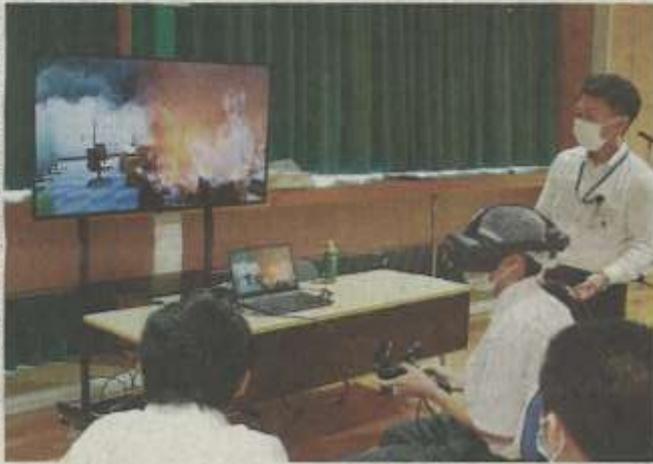


# 災害時の避難手順 ゲーム感覚で学ぶ

仮想現実（VR）のソフトを使って災害時の避難行動を学ぶ授業が、境町塚崎の県立境特別支援学校で開かれた。障害のある高校生ら約六十人がゴーグルで視界を覆いながら、ゲーム感覚で非常時の手順を学んだ。



火災を想定した場面で、現場からの避難経路を確保しようとする生徒。境町で

災害の危険性や怖さを正しく認識してもらおうと、同校が防災システム会社「能美防災」（本社・東京）とともに実施した。同社が教育現場でこのソフトを利用するのは初めてという。

ソフトでは、パソコンから発生した火事やエレベーター利用中に起きた大地震など、さまざまなパターンを選択。生徒たちは手元のコントローラー（操作機器）を使って、避難経路を確保していた。

同校によると、知的障害がある生徒たちには、指示されないと行動できなかつたり、非常ベルのような大きな音を苦手としたりする人もおり、通常の避難訓練が難しいという。

三年生の大野陽平さん（こも）は「煙が立ち上り危なかったが、落ち着いて避難ができた。VRは面白いが、実際にこんな場面に遭わない方がいい」と話していた。（出来田敬司）

## 境特別支援学校 VR使い授業

高等部3年VR体験学習が東京新聞（2022年9月21日発行）に掲載されました。